

人文学・社会科学の研究振興について  
- 次期基本計画の策定に向けて -

令和2年9月3日

文部科学省 研究振興局長  
杉 野 剛

# 1 人文学・社会科学の研究振興の視点

## 自然科学と人文学・社会科学の調和ある発展

- 明治以来、国は自然科学に重点投資する一方、人文学・社会科学は私立大学に大きく依存。
- 諸外国と比べ、学位（修士以上）取得者に占める人文学・社会科学の割合の低さは顕著。
- 分野間の著しい不均衡が、科学技術・イノベーションの総合力の足かせとなるおそれ。  
→ 自然科学とともに、人文学・社会科学を重視する国の姿勢を明確に

## 分野や機関を超えた交流と共用

- 人文学・社会科学の研究は、ややもすると個別分野の精緻化・細分化に陥る傾向。
- 研究データは個人管理の傾向が強く、データのデジタル化・共用化は大幅な遅れ。
- 人文学・社会科学 - 自然科学間の交流・連携も限定的か、形骸化する傾向。  
→ 交流・共用を進める基盤・環境整備は国がイニシアティブを

## 社会の現実的諸課題との対峙

- 欧米社会を前提とした先進的な学問を輸入・受容してきた歴史。
- 専門分野にもよるが、現実の社会と積極的に向き合い応答する姿勢に課題。
- 社会の側も、諸課題解決に人文学・社会科学の知見を活用する意識が必要。  
→ 人文学・社会科学と社会との応答を促す機運を醸成

## 2 人文学・社会科学の研究振興の方策(例)

### (1) 人文学・社会科学の多様で分厚い研究の蓄積

○科研費など基盤的な研究資金の拡充

地方大学における人文学・社会科学研究の基盤維持のための支援

○大学院教育の充実と若手研究者のキャリアパスの確保 など

### (2) 人文学・社会科学の連携・共用の基盤整備

○論文・文献等のデジタル・データ・インフラ整備とオープンデータ化

○大学共同利用機関（人間文化研究機構）と大学等との連携強化

大学の共同利用・共同研究拠点（18施設）の拡充 など

### (3) 社会的課題に対応する人文学・社会科学の振興

○社会的課題に対応する府省横断的政策研究プロジェクトの創設

○国の各種研究支援事業における人文学・社会科学に関する課題の検討

○自然科学と人文学・社会科学の「総合知」を目指す研究プロジェクトの推進 など

### (4) 人文学・社会科学を重視し、活用する環境づくり

○公的機関の運営への人文学・社会科学研究者の登用拡大

○人文学・社会科学の学位（修士以上）取得者の幅広い活躍の場の確保

○（自然科学系を含め）学部教育におけるリベラルアーツ教育の充実 など

## 参考資料 1 : 大学等の専門分野別の研究本務者数構成比

自然科学においては、国立の大学等に所属する研究本務者が約 5 割である一方で、人文・社会科学においては、約 3 割程度。



出典：令和元年度科学技術研究調査（総務省統計局）

「大学等」：大学の学部（大学院の研究科を含む）、短期大学、高等専門学校、大学附置研究施設、大学共同利用機関法人、独立行政法人国立高等専門学校機構

「研究本務者」：教員（教授、准教授、助教、講師）、大学院博士課程の在籍者、医局員（「教員」及び「大学院博士課程の在籍者」以外の者で、医学部等に所属し、大学付属病院及び関連施設において診療、研究、教育に従事している医者）、その他の研究員（「教員」及び「大学院博士課程の在籍者」、「医局員」以外の者で、大学（短期大学を除く）の課程を修了した者又はこれと同等以上の専門的知識を有し、特定のテーマをもって研究を行っている者）。

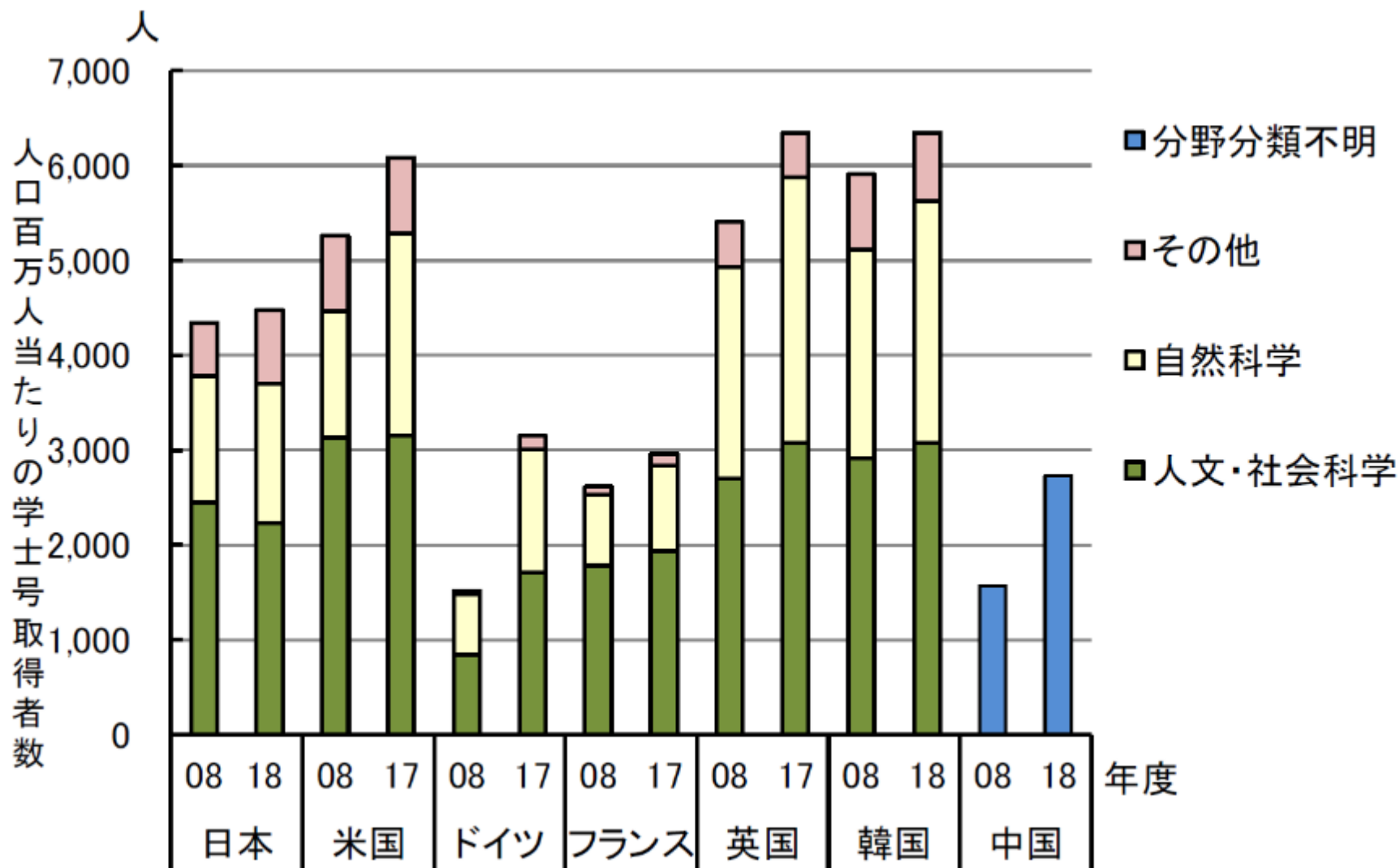
「本務者」：内部で研究を主とする者をいう。「本務者」に対して「兼務者」は、外部に本務を持つ研究者をいう。

「人文・社会科学」：人文科学、社会科学

「自然科学」：理学、工学、農学、保健

## 参考資料 2 - 1 : 人口100 万人当たりの学士号取得者数の国際比較

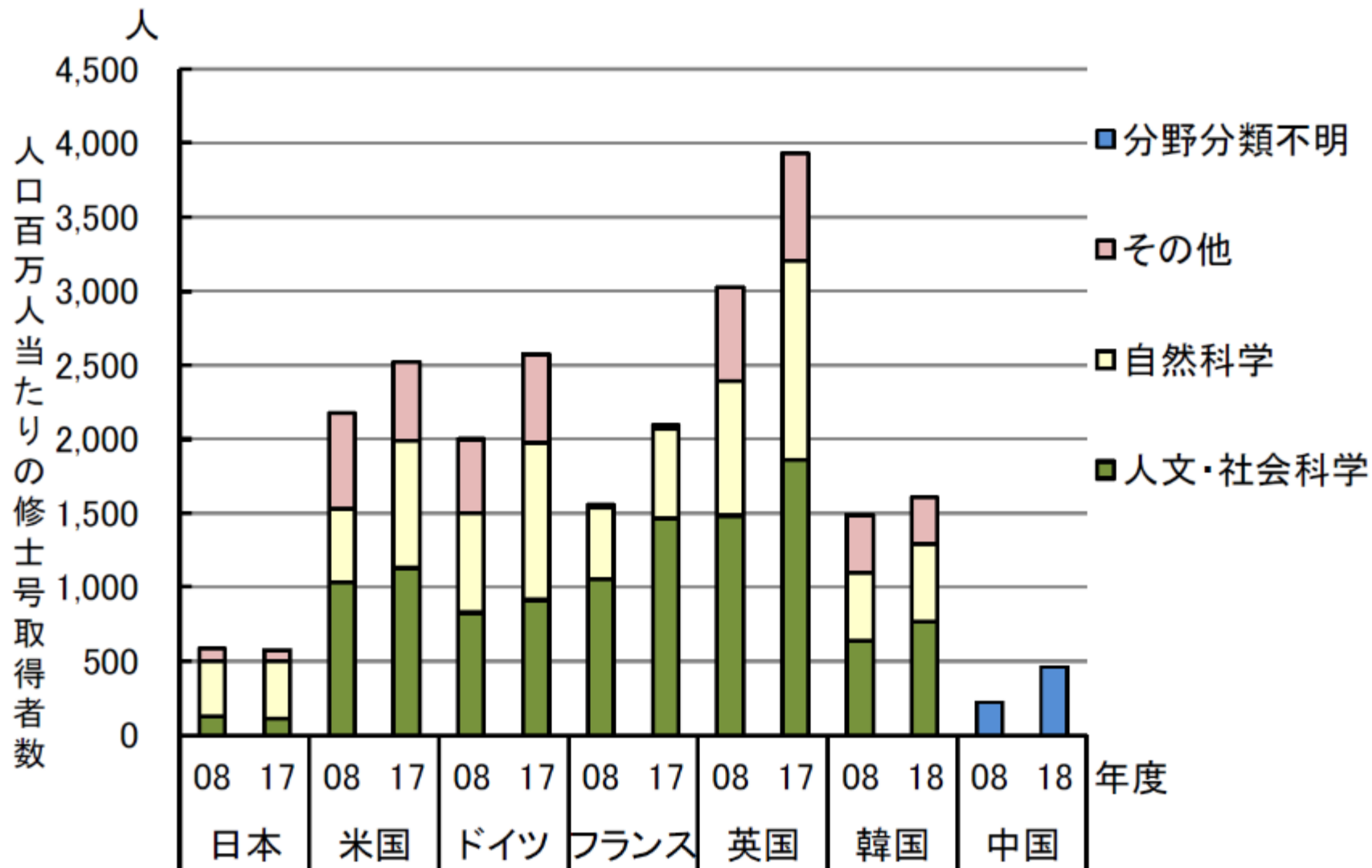
学士号取得者に占める人文・社会科学系の割合は、日・米・英ともに約5割。



出典：科学技術指標2020

## 参考資料 2 - 2 : 人口100 万人当たりの修士号取得者数の国際比較

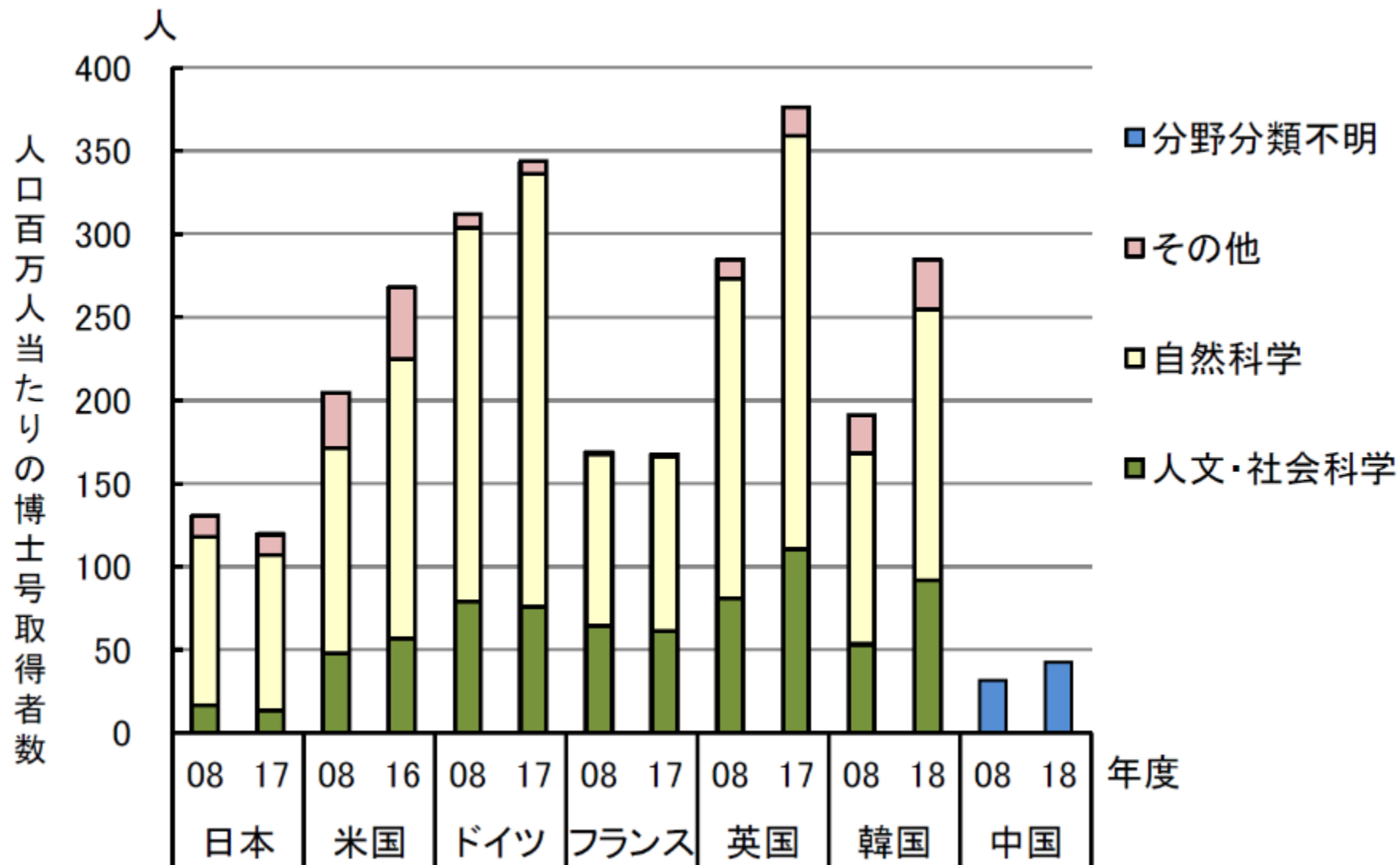
修士号取得者に占める人文・社会科学系の割合は、米国約 4 割、英国約 5 割に対して、日本は約 2 割程度。



出典：科学技術指標2020

## 参考資料 2 - 3 : 人口100 万人当たりの博士号取得者数の国際比較

博士号取得者に占める人文・社会科学系の割合は、米国約 2 割、英国約 3 割に対して、日本は約 1 割程度。



出典：科学技術指標2020